(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-171307
(P2017-171307A)
(43)公開日　平成29年9月28日(2017.9.28)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 51/26	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	51/26		３Ｅ０６２
B65D 25/10	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	25/10		３Ｅ０６７
B65D 77/02	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	77/02	Ｃ	３Ｅ０８４

審査請求 未請求　請求項の数 11　ＯＬ　（全 15 頁）

(21)出願番号　特願2016-56073(P2016-56073)
(22)出願日　平成28年3月18日(2016.3.18)

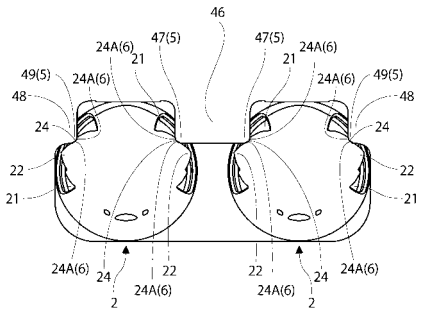
(71)出願人　000186588
小林製薬株式会社
大阪府大阪市中央区道修町四丁目４番１０号
(74)代理人　110000796
特許業務法人三枝国際特許事務所
(72)発明者　内山　信一
大阪府茨木市豊川一丁目３０番３号　小林製薬株式会社中央研究所内

Ｆターム(参考)　3E062 AA03 AB07 AC02 BB01 EC09 FB01 FC07
3E067 AA17 AB97 AC04 AC11 BA02A BA10A BB14A BB15A BB16A CA11 EA18 EB11 EB17 EC09 FA01 FC01

最終頁に続く

(54)【発明の名称】収容ケース

(57)【要約】
【課題】卵型などの商品をその向きが変わることを極力抑制した状態で収容できる収容ケースを提供する。
【解決手段】内部に少なくとも１つの物品２を収容した収容ケース１であって、物品２を個別に収容する収容部３０を有するケース本体３と、ケース本体３に収容された物品２を覆う蓋体４とを備える。蓋体４は、物品２ごとに、内面から物品２に向けて突き出る突部５を少なくとも１つ有し、物品２は、突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の少なくとも一方側に突部５が突き当たるストッパー部６を有する。
【選択図】図１４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
内部に少なくとも１つの物品を収容した収容ケースであって、
前記物品を個別に収容する収容部を有するケース本体と、前記ケース本体に収容された前記物品を覆う蓋体とを備え、
前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに、内面から前記物品に向けて突き出る突部を少なくとも１つ有し、
前記物品は、前記突部に対して前記物品の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の少なくとも一方側に前記突部が突き当たるストッパー部を有する収容ケース。
【請求項２】
前記物品は、前記突部に対して前記物品の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側に前記ストッパー部をそれぞれ有する請求項１に記載の収容ケース。
【請求項３】
前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに前記突部を２つ備え、
前記物品は、前記突部ごとに、前記突部に対して前記物品の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側に前記ストッパー部をそれぞれ有する請求項２に記載の収容ケース。
【請求項４】
前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに前記突部を２つ備え、
前記物品は、一方の前記突部に対しては前記物品の水平回転方向の正方向側に、他方の前記突部に対しては前記物品の水平回転方向の逆方向側に、前記ストッパー部をそれぞれ備える請求項１に記載の収容ケース。
【請求項５】
前記物品は、外面に開口部又は凹部を有し、
前記開口部又は前記凹部を囲む縁部の一部分が前記ストッパー部を構成する請求項１～４のいずれかに記載の収容ケース。
【請求項６】
前記物品は、外面から張り出す張出部を有し、
前記張出部の一部分が前記ストッパー部を構成する請求項１～４のいずれかに記載の収容ケース。
【請求項７】
前記張出部には凹状の切欠部が形成され、前記突部の先端が前記切欠部に位置している請求項６に記載の収容ケース。
【請求項８】
前記物品は、外面に開口部又は凹部を有するとともに、前記開口部又は前記凹部の上部に張り出す張出部を有し、
前記突部の先端が、前記開口部又は前記凹部を囲む縁部と前記張出部との間に位置し、前記開口部又は前記凹部を囲む縁部の一部分及び前記張出部の一部分がそれぞれ前記ストッパー部を構成する請求項１～３のいずれかに記載の収容ケース。
【請求項９】
前記物品の全体形状が卵型もしくは楕円体型である請求項１～８のいずれかに記載の収容ケース。
【請求項１０】
請求項１～９のいずれかに記載の収容ケースであって、
前記蓋体が前記ケース本体にヒンジ部を介して開閉可能な平面視矩形状の箱型をなしており、
前記突部が、前記蓋体又は前記ケース本体の前記ヒンジ部側の背面に設けられている収容ケース。
【請求項１１】
前記ケース本体は、前記収容部を複数有し、
前記蓋体又は前記ケース本体は、前記背面から突き出るとともに先端縁の左右両端に角

部分を有する突起部を有し、
前記突起部は、隣接する前記収容部の間に位置し、一方の前記角部分が隣接する前記収容部の一方に収容された前記物品に対する前記突部を構成し、他方の角部分が隣接する前記収容部の他方に収容された前記物品に対する前記突部を構成する請求項１０に記載の収容ケース。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、例えば卵型の物品を収容するための収容ケースに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、複数の卵を収容するための透明なプラスチック製の収容ケースとして、いわゆる卵パックが知られている。この種の収容ケースは、蓋体がケース本体にヒンジを介して開閉可能な略箱型をなしている。例えば特許文献１の収容ケース（卵パック）は、ケース本体内に、卵を立てた状態で収容可能なように各卵の下半分を保持する凹状の収容部が複数設けられており、全ての卵の上半分を覆う収容空間を有する蓋体を閉じ、ヒンジとは反対側に設けられたフランジにてケース本体及び蓋体をステープル止めすることで、卵が収容ケース内に収容される。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１４－６５５０２号公報
【発明の概要】
【０００４】
近年、商品開発においてはデザイン性が重視され、デザイン的に面白みのある形状の商品が販売されており、例えば卵型をなす商品が販売されている。この卵型の商品を販売するに当たっては、本物の卵を収容するための卵パックとほぼ同形状の収容ケースに収容されて店頭に陳列される。ここで、従来の卵パック（収容ケース）では、卵が収容部内で水平回転可能に収容されるが、収容される物品が卵であれば３６０°いかなる方向からも見た目が変わらないため、収容ケースに収容した状態から収容ケース内で水平回転してその向きが変わって店頭に陳列されても、特段の問題はない。これに対して、収容される物品が卵型の商品である場合には、ディスプレイ効果を高めるために店頭に陳列する際に商品を決まった向き（例えば正面が購買者を向く向き）で収容することが多く、商品の向きが収容ケースに収容した状態から変わると購買者の購買意欲を低下させる。したがって、卵型の商品を従来の卵を収容するための卵パックに収容したのでは、収容ケースに収容した後、店頭に陳列するまでの間に収容ケース内でその向きが変わる可能性が高いので好ましくない。
【０００５】
本発明は、上記した課題に着目してなされたものであり、卵型などの商品をその向きが変わることを極力抑制した状態で収容できる収容ケースを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明の上記目的は、内部に少なくとも１つの物品を収容した収容ケースであって、前記物品を個別に収容する収容部を有するケース本体と、前記ケース本体に収容された前記物品を覆う蓋体とを備え、前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに、内面から前記物品に向けて突き出る突部を少なくとも１つ有し、前記物品は、前記突部に対して前記物品の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の少なくとも一方側に前記突部が突き当たるストッパー部を有する収容ケースによって達成される。
【０００７】
本発明の好ましい実施態様の収容ケースは、前記物品は、前記突部に対して前記物品の

水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側に前記ストッパー部をそれぞれ有することを特徴としている。この実施態様の収容ケースにおいては、さらに、前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに前記突部を２つ備え、前記物品は、前記突部ごとに、前記突部に対して前記物品の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側に前記ストッパー部をそれぞれ有することが好ましい。

【０００８】

本発明の好ましい他の実施態様の収容ケースは、前記蓋体又は前記ケース本体は、前記物品ごとに前記突部を２つ備え、前記物品は、一方の前記突部に対しては前記物品の水平回転方向の正方向側に、他方の前記突部に対しては前記物品の水平回転方向の逆方向側に、前記ストッパー部をそれぞれ備えることを特徴としている。

【０００９】

本発明のさらに好ましい実施態様の収容ケースは、前記物品は、外面に開口部又は凹部を有し、前記開口部又は前記凹部を囲む縁部の一部分が前記ストッパー部を構成することを特徴としている。

【００１０】

本発明のさらに好ましい他の実施態様の収容ケースは、前記物品は、外面から張り出す張出部を有し、前記張出部の一部分が前記ストッパー部を構成することを特徴としている。この実施態様の収容ケースにおいては、さらに、前記張出部には凹状の切欠部が形成され、前記突部の先端が前記切欠部に位置していることが好ましい。

【００１１】

本発明のさらに好ましい他の実施態様の収容ケースは、前記物品は、外面に開口部又は凹部を有するとともに、前記開口部又は前記凹部の上部に張り出す張出部を有し、前記突部の先端が、前記開口部又は前記凹部を囲む縁部と前記張出部との間に位置し、前記開口部又は前記凹部を囲む縁部の一部分及び前記張出部の一部分がそれぞれ前記ストッパー部を構成することを特徴としている。

【００１２】

本発明のさらに好ましい実施態様の収容ケースは、前記物品の全体形状が卵型もしくは楕円球型であることを特徴としている。この実施態様の収容ケースにおいては、さらに、前記物品が冷蔵庫内の卵を個別に収納するための卵ポケットに収納可能な大きさであることが好ましい。

【００１３】

本発明のさらに好ましい実施態様の収容ケースは、前記蓋体が前記ケース本体にヒンジ部を介して開閉可能な平面視矩形状の箱型をなしており、前記突部が、前記蓋体又は前記ケース本体の前記ヒンジ部側の背面に設けられていることを特徴としている。この実施態様の収容ケースにおいては、さらに、前記ケース本体は、前記収容部を複数有し、前記蓋体又は前記ケース本体は、前記背面から突き出るとともに先端縁の左右両端に角部分を有する突起部を有し、前記突起部は、隣接する前記収容部の間に位置し、一方の前記角部分が隣接する前記収容部の一方に収容された前記物品に対する前記突部を構成し、他方の角部分が隣接する前記収容部の他方に収容された前記物品に対する前記突部を構成することが好ましい。

【発明の効果】

【００１４】

本発明に係る収容ケースによると、物品として卵型などの商品を収容しても、その向きが変わることを極力抑制した状態で収容することができる。したがって、店頭に陳列する際に、ディスプレイ効果を高めるために商品を決まった向き（例えば正面が購買者を向く向き）とすることができるので、購買者の購買意欲の低下を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】本発明の一実施形態に係る収容ケースの蓋体を開いた状態の平面図である。

【図２】図１の正面図である。

【図３】物品の斜視図である。
【図４】図３の正面図である。
【図５】図３の背面図である。
【図６】図３の右側面図である。
【図７】図３の平面図である。
【図８】図３の底面図である。
【図９】図１の収容ケースの物品を取り除いた状態の平面図である。
【図１０】図９の正面図である。
【図１１】図９の背面図である。
【図１２】図９の右側面図である。
【図１３】図９の底面図である。
【図１４】図１の収容ケースにおいて、蓋体を閉じたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図１５】図１４の物品の向きを変えたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図１６】変形例の収容ケースにおいて、蓋体を閉じたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図１７】図１４の物品の向きを変えたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図１８】図１４の物品の向きを変えたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図１９】図１４の物品の向きを変えたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【図２０】変形例の収容ケースにおいて、蓋体を閉じたときの突部とストッパー部との関係を示す概略図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
以下、本発明の実態形態について添付図面を参照して説明する。本発明の収容ケースは、例えば卵型、楕円体型、球型、円柱型、円錐台型、円錐型などの水平回転しやすい物品を内部に収容するためのものである。なお、必ずしも、収容ケース内に収容される物品は卵型などの水平回転しやすいものに限られるものではなく、角柱型や角錐型、角錐台型などの種々の形状であってもよい。
【００１７】
図１及び図２に示すように、本実施形態の収容ケース１は、物品２を個別に収容するケース本体３と、ケース本体３に収容された物品２を覆う蓋体４とを備える。なお、以下の説明では、図１及び図２に示す収容ケース１において、物品２の並ぶ方向（長手方向）を「左右方向」、高さ方向を「上下方向」、奥行き方向を「前後方向」と称する。
【００１８】
物品２は、図３～図８に示すように、本実施形態では、全体形状が卵型もしくは楕円体型を呈している。ここで、楕円体型とは、楕円を三次元へ拡張したような図形（長軸を回転軸として楕円を回転させて得られる図形）を指し、卵型は、楕円体型と比べて、上側の曲がり度合いが下側の曲がり度合いよりも大きくなるように形成されている。なお、本実施形態では、物品２の底部２３が物品２を安定して自立可能とするように僅かに底上げされた平坦状にされているなど、物品２は完全な卵型もしくは楕円体型ではないが、全体形状がおおよそ卵型もしくは楕円体型をしていれば卵型もしくは楕円体型に含まれる。また、本実施形態の物品２は、ひよこに模して作られており、目及び口が表示されている側を「正面」、その反対側を「背面」としている。
【００１９】
さらに、本実施形態の物品２は、内部に脱臭シート２０を保持しており、例えば、冷蔵庫、洋服ダンス、クローゼット、靴箱などの物品の収納庫に設置され、庫内の脱臭に用い

られるものであるが、特に冷蔵庫内の卵を個別に収納するための卵ポケットに収納できるように、そのサイズ（大きさ）として、平面視での直径が３０ｍｍ～５０ｍｍであり、高さが５０ｍｍ～８５ｍｍに形成されている。

【００２０】

物品２の外面には、物品２の内外を連通する一対の開口部２１が互いに対向するように設けられており、一対の開口部２１により、物品２の外部から内部に空気が流入するとともに物品２の内部の空気が外部に流出する。このとき、物品２内の空気が脱臭シート２０を通り抜けることで脱臭される。

【００２１】

一対の開口部２１は互いに対向するよう配置されるが、本実施形態では、互いに正面同士となる、つまりは、平面視において、一方の開口部２１が他方の開口部２１の点対称位置（１８０°回転させた位置）となるようには配置されておらず、一方の開口部２１が他方の開口部２１の点対称位置からずれるように配置されている。これにより、例えば図２及び図４の正面視で物品２を視認した場合に、一対の開口部２１が物品２の後方側にずれてその大部分が隠れるので、各開口部２１を目立たなくすることができる。よって、デザイン性の向上を図ることができる。なお、一対の開口部２１は互いに正面同士となるように配置されていてもよい。

【００２２】

また、物品２の外面には、開口部２１ごとに、開口部２１の上部に外面から張り出す張出部２２が設けられている。この張出部２２は、基端が物品２に一体に連なっており、先端側が基端よりも下方に位置するよう傾斜し、その先端は開口部２１の下端の縁部２１Ａまで達している。張出部２２は、本実施形態では、略三角形状であり、ひよこの翼に模して作られている。また、張出部２２には凹状の切欠部２４が形成されており、この切欠部２４によって張出部２２がひよこの翼により似た形状となるうえ、この切欠部２４は後述するストッパー部６を構成する。なお、張出部２２の外形は特に限定されるものではなく、種々の形状とすることができる。

【００２３】

ケース本体３は、図９～図１３に示すように、上部が開口し、内部に物品２を個別に収容する収容部３０を有している。ケース本体３は、本実施形態では、複数（図示例では２個）の物品２を収容できる大きさを有する平面視長方形状をなし、収容部３０が長手方向に並んで設けられている。

【００２４】

ケース本体３は、底面壁３１と、底面壁３１の周縁から立ち上がる周面壁３２とを有している。底面壁３１には、その中心位置に、上方に大きく突き出る区画壁３３が設けられており、区画壁３３により隣接する収容部３０が区切られ、区画壁３３により収容部３０に収容された物品２の左右方向の移動が規制されている。また、底面壁３１には、収容部３０ごとに、上方に小さく突き出る支持壁３４が設けられており、支持壁３４が物品２の底上げされた底部２３に嵌まることで、物品２が安定した状態で収容部３０に収容されている。なお、ケース本体３が収容部３０を３つ以上有する場合には、支持壁３４がケース本体３の長手方向に沿って所定の間隔をあけて複数設けられる。

【００２５】

周面壁３２の上端には、水平方向外側に突き出る断面視Ｌ字状の凸状周縁部３５が設けられており、凸状周縁部３５の先端には水平方向外側に延びるフランジ部３６が設けられている。また、周面壁３２には、適当な位置に上下方向に延びるリブ３８が設けられており、ケース本体３の強度の向上が図られている。

【００２６】

フランジ部３６の前方側両端の角部分３７は、他の部分との間に段差が設けられることで下方に位置している。角部分３７は面取りされている。また、フランジ部３６の後方側の側縁部分にはヒンジ部３９が設けられており、ヒンジ部３９を介して蓋体４がケース本体３に、ケース本体３の上部開口を開閉可能に接続されている。

【００２７】
蓋体４は、下部が開口し、内部にケース本体３に収容された物品２を覆う収容空間４０を有している。蓋体４は、本実施形態では、複数（図示例では２個）の物品２を覆うことができる大きさを有する平面視長方形状をなしている。
【００２８】
蓋体４は、上面壁４１と、上面壁４１の周縁から垂れ下がる周面壁４２とを有している。周面壁４２の下端には、水平方向外側に突き出る断面視Ｌ字状の肩部４３が設けられており、肩部４３の先端には水平方向外側に延びるフランジ部４４が設けられている。この蓋体４の肩部４３にケース本体３の凸状周縁部３５が嵌合することで、蓋体４がケース本体３から容易に外れないようになっている。
【００２９】
フランジ部４４の前方側両端の角部分４５は、他の部分との間に段差が設けられることで上方に位置している。角部分４５は面取りされている。蓋体４がケース本体３に被せられた際、フランジ部３６，４４同士は重ね合わされるが、角部分３７，４５は上下方向に僅かに離れている。これより、フランジ部３６，４４の角部分３７，４５を互いに引き離すことで蓋体４を容易に開けることができる。また、フランジ部４４の後方側の側縁部分にはヒンジ部３９が設けられている。
【００３０】
蓋体４は、閉じた際に、ケース本体３に収容される物品２ごとに、内面から物品２に向けて突き出る突部５を少なくとも１つ有する。本実施形態では、蓋体４は、周面壁４２のヒンジ部３９側の背面から内側に突き出るとともに先端縁の左右の両端に角部分４７を有する第１突起部４６を有している。この第１突起部４６は、隣接する収容部３０の間に位置しており、一方の角部分４７が隣接する収容部３０の一方に収容された物品２に向けて突き出ることで当該物品２に対する前記突部５を構成し、他方の角部分４７が隣接する収容部３０の他方に収容された物品２に向けて突き出ることで当該物品２に対する前記突部５を構成している。
【００３１】
さらに、蓋体４は、周面壁４２の背面の両端の角部から内側に突き出るとともに先端に角部分４９を有する第２突起部４８を有している。この第２突起部４８は、収容部３０に対して第１突起部４６とは反対側に位置しており、角部分４９が収容部３０に収容された物品２に向けて突き出ることで当該物品２に対する前記突部５を構成している。
【００３２】
これに対して、収容部３０に収容される物品２は、蓋体４の突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の少なくとも一方側に突部５が突き当たるストッパー部６を有している。これにより、収容部３０に収容された物品２は、正方向又は逆方向の水平回転が規制されるので、物品２を収容部３０に収容した後、物品２の向きが変わることを極力抑制することができる。
【００３３】
このストッパー部６は、本実施形態では、物品２に設けられた張出部２２の一部分により構成されている。
【００３４】
具体的には、例えば図１４に示すように物品２の正面がケース本体３内の正面を向くように収容されることで、第１突起部４６の角部分４７が突部５の先端として物品２の一方の張出部２２の一方側（後方側）の切欠部２４に位置するとともに、第２突起部４８の角部分４９が突部５の先端として物品２の他方の張出部２２の一方側（後方側）の切欠部２４に位置する。そのため、物品２が正方向又は逆方向に水平回転しても、張出部２２の一部分である切欠部２４の両側縁部分がストッパー部６として突部５に突き当たるので、物品２の水平回転が規制される。
【００３５】
本実施形態では、物品２ごとに蓋体４が突部５を２つずつ有するうえ、物品２は突部５

に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側にストッパー部６をそれぞれ有するので、物品２を収容部３０に収容した状態において、正方向及び逆方向のいずれの方向についても物品２の水平回転を確実に規制できる。よって、物品２の向きが変わることを効果的に防止することができる。

【００３６】

なお、ストッパー部６は、物品２に設けられた張出部２２の一部分及び物品に形成された開口部２１を囲む縁部の一部分により構成することもできる。

【００３７】

例えば図１５に示すように物品２が互いに正面同士で向かい合うようにケース本体３内に収容されると、突部５の先端として第２突起部４８の角部分４９が、物品２のいずれか一方の開口部２１における張出部２２と開口部２１を囲む縁部との間に位置する。そのため、物品２が正方向又は逆方向に水平回転しても、張出部２２の一部分と、開口部２１の縁部の一部分である後端の縁部２１Ｃとがストッパー部６として突部５に突き当たるので、物品２の水平回転が規制される。なお、物品２を互いに正面同士で向かい合うようにケース本体内３に収容する場合、本実施形態の物品２では、蓋体４の第１突起４６は特に必要はなく、省略することができ、物品２ごとに蓋体４は突部５を１つずつ有していればよい。

【００３８】

ただし、図１６に示すように、物品２の開口部２１の横幅を大きくし、物品２の前方側にまで延ばすと、突部５の先端として第１突起部４６の角部分４７が、開口部２１の縁部の一部分である前端の縁部２１Ｂと張出部２２との間に位置する。これにより、第１突起部４６の角部分４７も突部５として、物品２が正方向又は逆方向に水平回転した際に、ストッパー部６（張出部２２の一部分及び開口部２１の前端の縁部２１Ｂに突き当たるので、図１４の例と同様に、物品２の水平回転を確実に規制できる。

【００３９】

また例えば図１７に示すように物品２が互いに背面同士で向かい合うようにケース本体３内に収容されると、突部５の先端として第１突起部４６の角部分４７が、物品２のいずれか一方の開口部２１における張出部２２と開口部２１を囲む縁部との間に位置する。そのため、物品２が正方向又は逆方向に水平回転しても、張出部２２の一部分と、開口部２１の縁部の一部分である後端の縁部２１Ｃとがストッパー部６として突部５に突き当たるので、物品２の水平回転が規制される。なお、この図１７のように物品２を互いに背面同士が向かい合うようにケース本体内３に収容する場合、本実施形態の物品２では、蓋体４の第２突起４８は特に必要はなく、省略することができ、物品２ごとに蓋体４は突部５を１つずつ有していればよい。

【００４０】

ただし、図１６の例と同様に、物品２の開口部２１の横幅を大きくし、物品２の前方側にまで延ばすと、図示は省略するが、突部５の先端として第２突起部４８の角部分４９が、開口部２１の縁部の一部分である前端の縁部２１Ｂと張出部２２との間に位置する。これにより、第２突起部４８の角部分４９も突部５として、物品２が正方向又は逆方向に水平回転した際に、ストッパー部６（張出部２２の一部分及び開口部２１の前端の縁部２１Ｂに突き当たるので、図１４の例と同様に、物品２の水平回転を確実に規制できる。

【００４１】

また例えば図１８に示すように物品２が互いに正面を４５°内側に向けて向かい合うようにケース本体３内に収容されると、突部５の先端として第１突起部４６の角部分４７が、物品２のいずれか一方の開口部２１における張出部２２と開口部２１を囲む縁部との間に位置する。そのため、物品２が正方向又は逆方向に水平回転しても、張出部２２の一部分と、開口部２１の縁部の一部分である前端の縁部２１Ｂとがストッパー部６として突部５に突き当たるので、物品２の水平回転が規制される。なお、この図１８のように物品２をケース本体内３に収容する場合、本実施形態の物品２では、蓋体４の第２突起４８は特に必要はなく、省略することができ、物品２ごとに蓋体４は突部５を１つずつ有していれ

ばよい。

【００４２】

また例えば図１９に示すように物品２が互いに正面を４５°外側に向けて向かい合うようにケース本体３内に収容されると、突部５の先端として第２突起部４８の角部分４９が、物品２のいずれか一方の開口部２１における張出部２２と開口部２１を囲む縁部との間に位置する。そのため、物品２が正方向又は逆方向に水平回転しても、張出部２２の一部分と、開口部２１の縁部の一部分である前端の縁部２１Ｂとがストッパー部６として突部５に突き当たるので、物品２の水平回転が規制される。なお、この図１９のように物品２をケース本体内３に収容する場合、本実施形態の物品２では、蓋体４の第１突起４６は特に必要はなく、省略することができ、物品２ごとに蓋体４は突部５を１つずつ有していればよい。

【００４３】

上述した図１５及び図１７～図１９の例では、物品２ごとに蓋体４は突部５を１つしか有していないが、物品２は突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側にストッパー部６をそれぞれ有するので、物品２を収容部３０に収容した状態において、正方向及び逆方向のいずれの方向についても物品２の水平回転を十分に規制できる。よって、物品２の向きが変わることを防止することができる。

【００４４】

さらに、ストッパー部６は、物品２に設けられた開口部２１を囲む縁部の一部分により構成することもできる。

【００４５】

例えば図２０に示すように、物品２をその正面がケース本体３内の正面を向くように収容した場合に、１つ目の突部５の先端として第１突起部４６の角部分４７を物品２の一方の開口部２１における後端の縁部２１Ｃの近傍に位置させるとともに、２つ目の突部５の先端として第２突起部４８の角部分４９を物品２の他方の開口部２１における後端の縁部２１Ｃの近傍に位置させる。これにより、物品２が正方向（時計回り）に水平回転すると、開口部２１の後端の縁部２１Ｃがストッパー部６として突部５（第１突起部４６の角部分４７）に突き当たる一方で、物品２が逆方向（反時計回り）に水平回転すると、開口部２１の後端の縁部２１Ｃがストッパー部６として突部５（第２突起部４８の角部分４９）に突き当たる。よって、この例でも、物品２の水平回転が規制される。なお、この図２０の例では張出部２２は特に必要はなく、省略することができる（図２０の例では省略されている）。

【００４６】

上述した例では、物品２は突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側又は逆方向側にしかストッパー部６を有していないが、物品２ごとに蓋体４が突部５を２つずつ有しているので、物品２を収容部３０に収容した状態において、正方向及び逆方向のいずれの方向についても物品２の水平回転を十分に規制できる。よって、物品２の向きが変わることを防止することができる。

【００４７】

上述した構成のケース本体３及び蓋体４は、内部の物品２を外部から視認することができるように透明または半透明であることが好ましいが、透明でなくてもよい。ケース本体３及び蓋体４の素材としては、特に限定されるものではないが、例えば、ポリエチレンテレフタラート、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ポリプロピレン、ポリエチレンなどを好ましく挙げることができる。

【００４８】

上述した構成の収容ケース１によれば、物品２をケース本体３の収容部３０に収容して蓋体４を閉じると、物品２ごとに突部５が物品２に向けて突き出ており、物品２には、突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の少なくとも一方側に、突部５が突き当たるストッパー部６が備えられているので、収容部３０に収容された物品２は、正方向及び逆方向の少なくとも一方向の水平回転が規制される。その結果、物品２を収

容部３０に収容した後、物品２の向きが変わることを極力抑制することができる。したがって、店頭に陳列する際に、ディスプレイ効果を高めるために商品を決まった向き（例えば正面が購買者を向く向き）とすることができるので、購買者の購買意欲の低下を防止することができる。

【００４９】

さらに物品２に、突部５に対して物品２の水平回転方向の正方向側及び逆方向側の双方側にストッパー部６がそれぞれ備えられていると、正方向及び逆方向のいずれの方向についても物品２の水平回転を確実に規制できるので、物品２の向きが変わることを効果的に防止することができる。

【００５０】

以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明はこれらに限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない限りにおいて種々の変更が可能である。

【００５１】

例えば、上記実施形態では、物品２に開口部２１を設け、開口部２１を囲む縁部をストッパー部６としているが、物品２の内外を連通する開口部２１ではなく、単に物品２の外面を凹ました凹部を設け、凹部を囲む縁部をストッパー部６としてもよい。

【００５２】

また、上記実施形態では、ストッパー部６が物品２の上半部に設けられており、それに伴い突部５が蓋体４に設けられているが、突部５をケース本体３に設け、ストッパー部６としての開口部や張出部を物品２の下半部に設けるように構成してもよい。

【００５３】

また、上記実施形態では、蓋体４がヒンジ部３９を介してケース本体３に接続されているが、ヒンジ部３９を設けることなく、蓋体４をケース本体３と別体としてもよい。

【００５４】

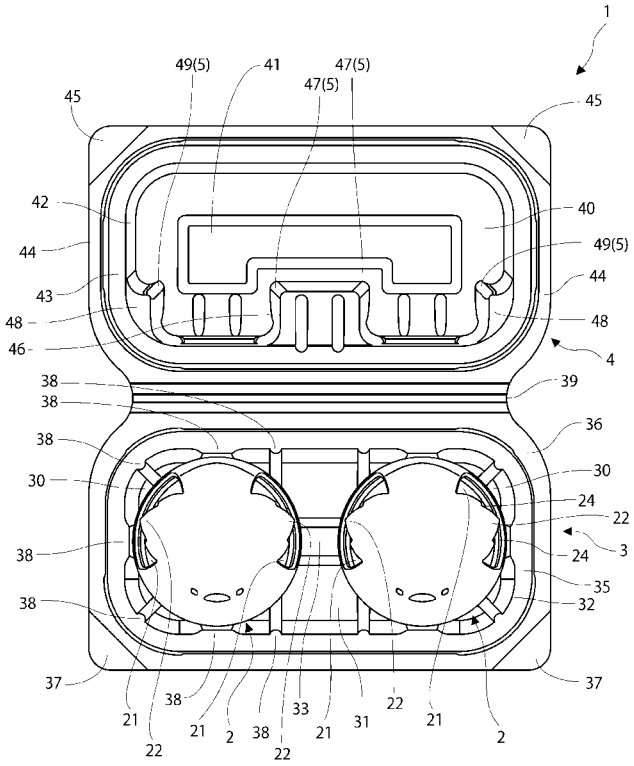
また、上記実施形態では、物品２が脱臭具であったが、種々の物品であってもよい。

【符号の説明】

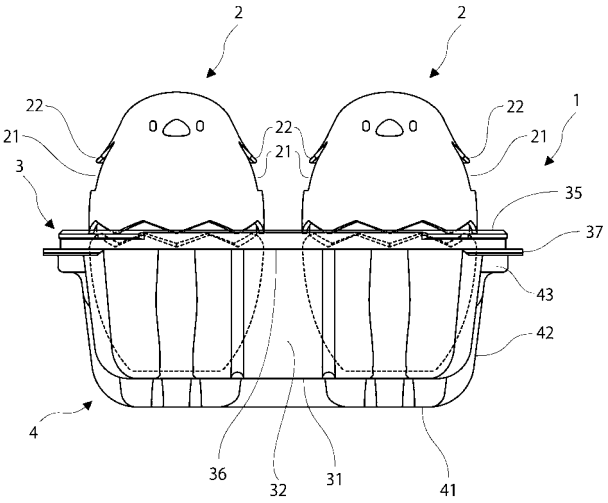
【００５５】

１　収容ケース
２　物品
３　ケース本体
４　蓋体
５　突部
６　ストッパー部
２１　開口部
２２　張出部
２４　切欠部
３０　収容部
３９　ヒンジ部
４６　第１突起部
４７　第１突起部の角部分
４８　第２突起部
４９　第２突起部の角部分

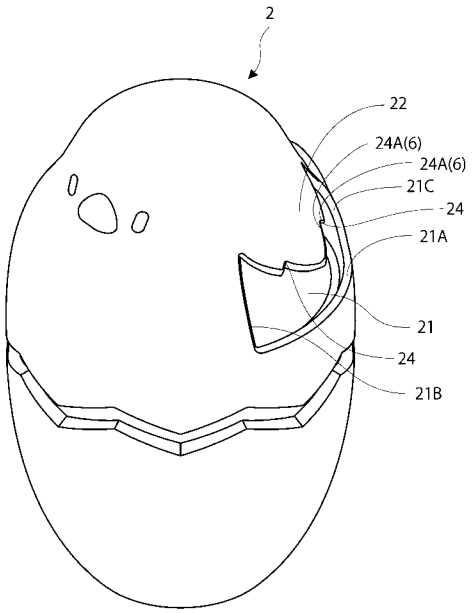
【図１】


1
49(5)
41
47(5)
47(5)
45
45
42
40
44
49(5)
43
44
48
48
46
4
38
39
38
36
38
30
30
24
22
38
24
3
35
38
32
37
37
38
21
22
21
2
38
22
33
21
31
22
21
2

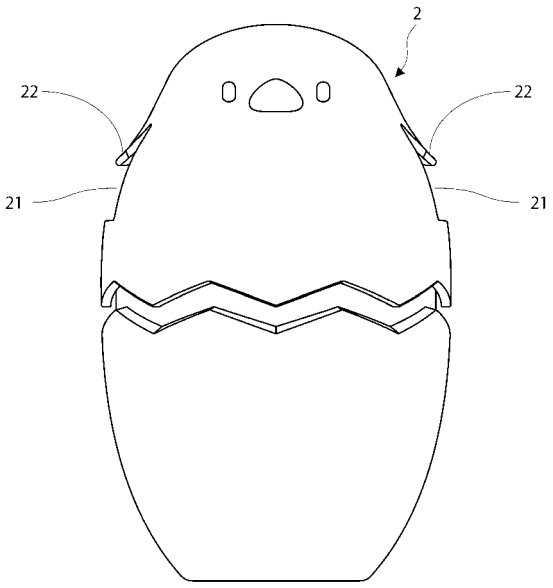
【図２】


2
2
22
21
3
22
21
22
21
1
35
37
43
42
4
36
32
31
41

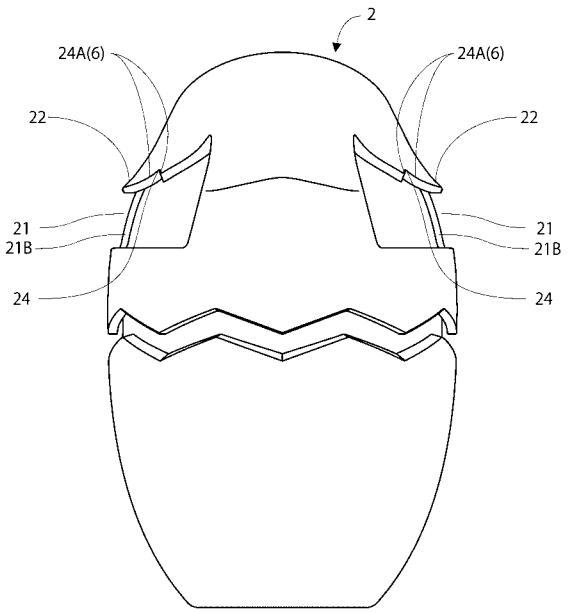
【図３】


2
22
24A(6)
24A(6)
21C
24
21A
21
24
21B

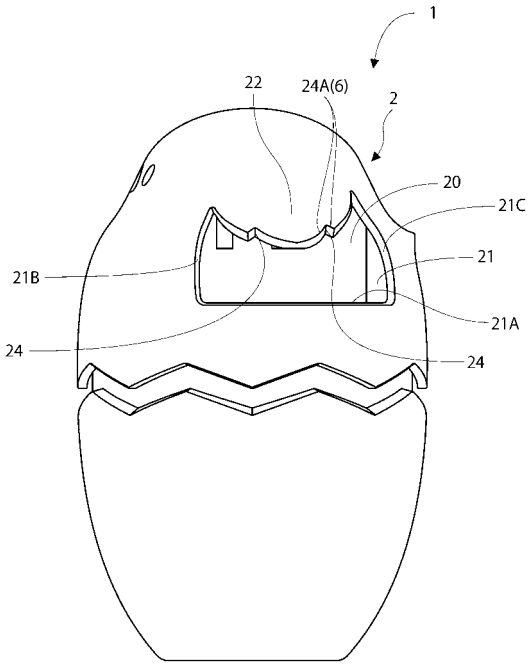
【図４】


2
22
22
21
21

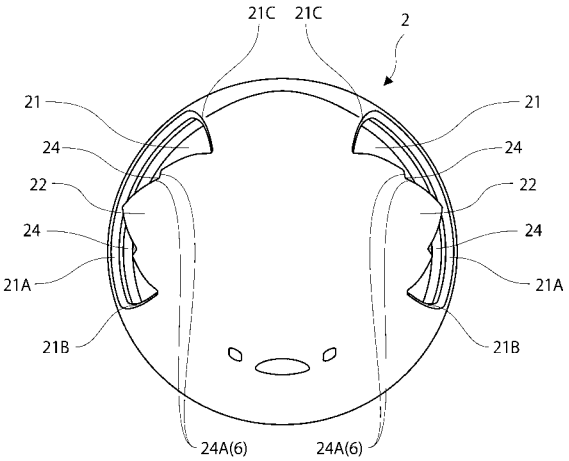
【図５】


2
24A(6)
24A(6)
22
22
21
21B
21
21B
24
24

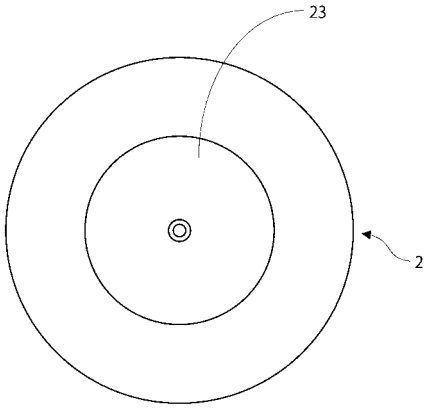
【図６】


1
22
24A(6)
2
20
21C
21B
21
21A
24
24

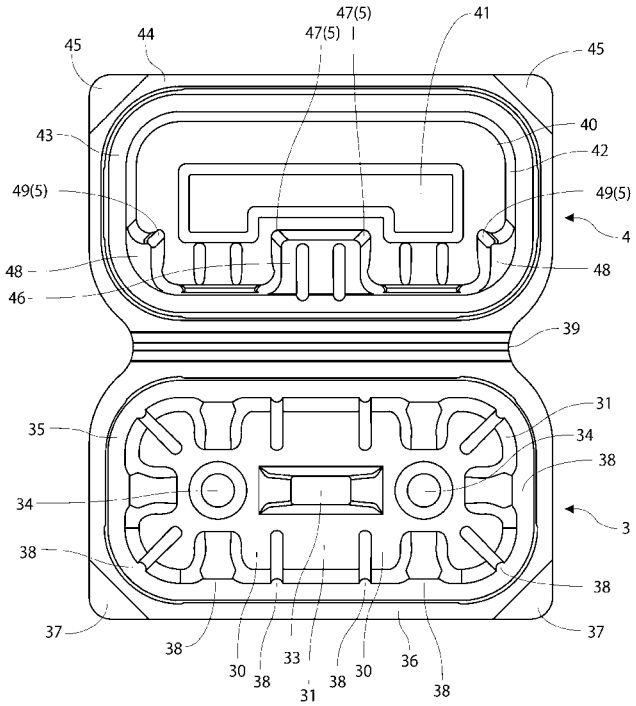
【図７】


21C
21C
2
21
21
24
24
22
22
24
24
21A
21A
21B
21B
24A(6)
24A(6)

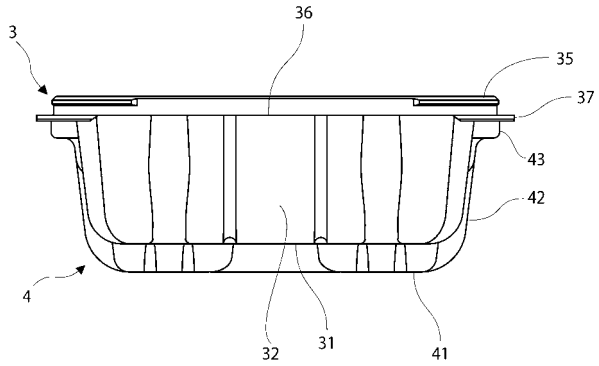
【図８】


23
2

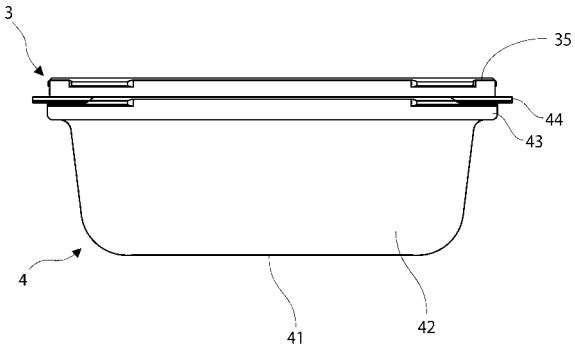
【図９】



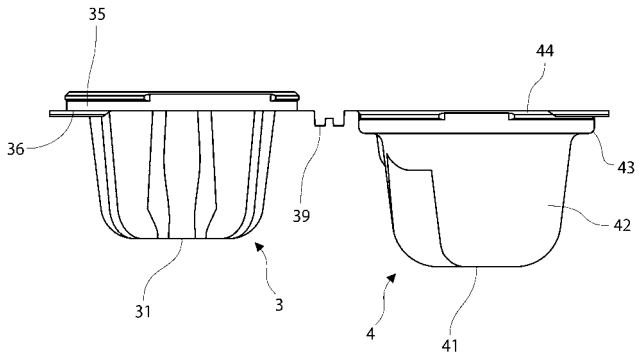
【図１０】



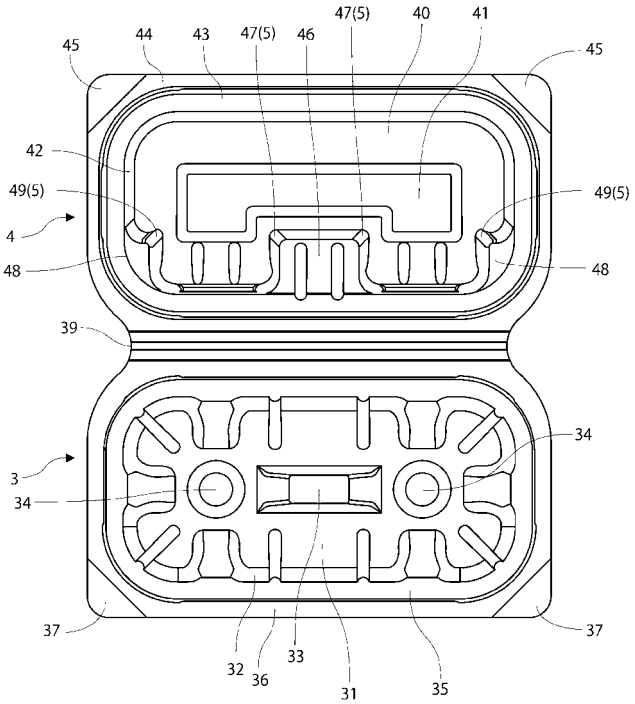
【図１１】



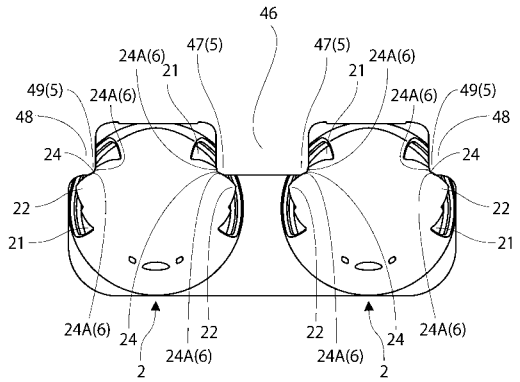
【図１２】



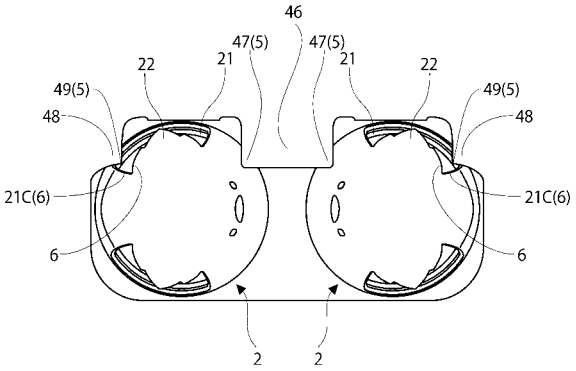
【図１３】



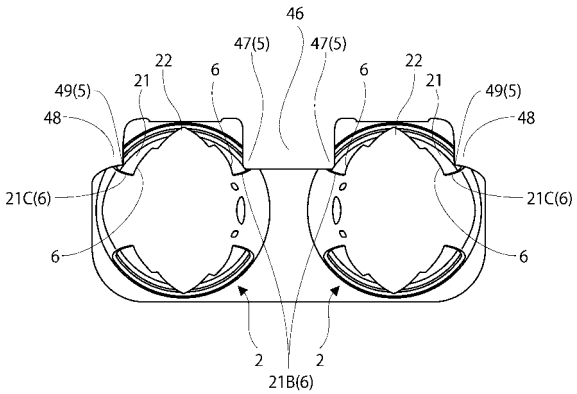
【図１４】



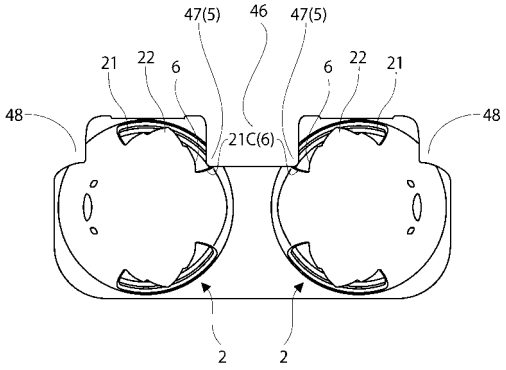
【図１５】



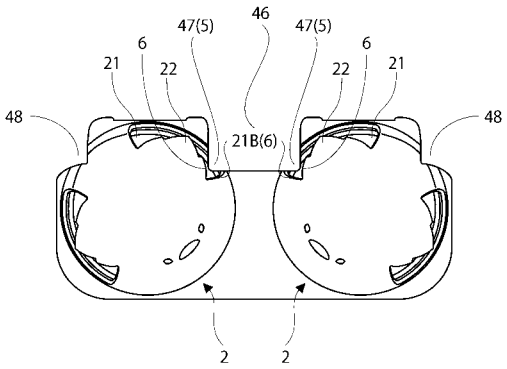
【図１６】



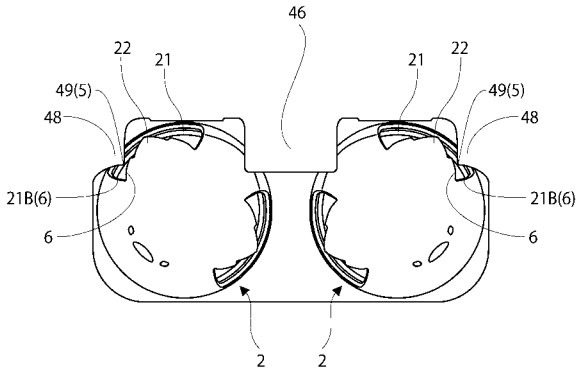
【図１７】



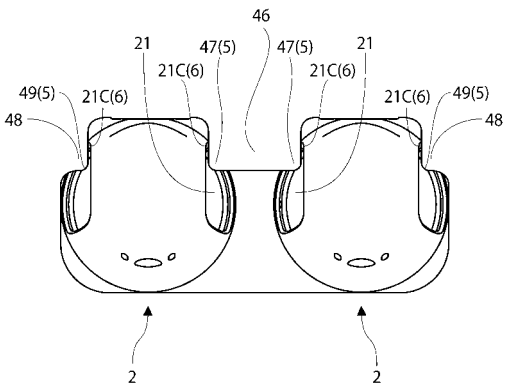
【図１８】



【図１９】



【図２０】



フロントページの続き

Ｆターム(参考) 3E084 AA05 AA14 AA24 AA25 AA26 AB10 BA01 CA03 DA03 DB13
FA02 FC07 GA06 GB06 JA20 KA20